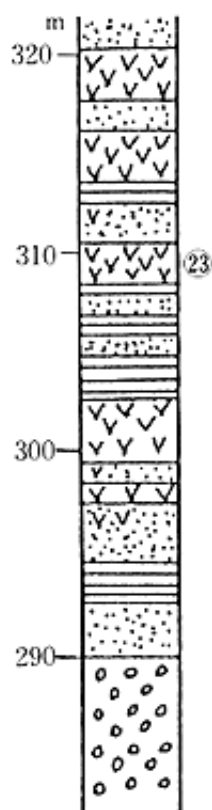
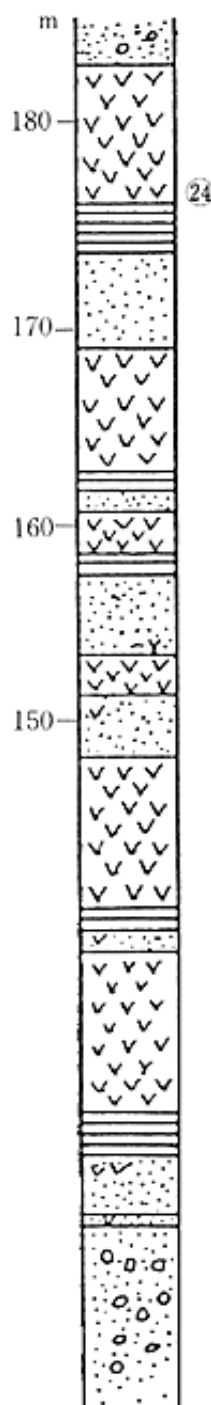


ヤナギイチゴ属 *Debregeasia* sp.

■ 発見地点、垂水区名谷町(左)、北区星和台(右)

▲ 細長い葉の形と
三行脈が特徴▲ 基部から細い脈が
葉の縁に出ている

▲ 基部の拡大写真

ヤナギイチゴ属

葉は非常に細長く線形に近い形で、葉の先は鋭くとがり、基部の部分も鋭いくさび形である。葉の縁ののこぎり葉は上半部に多く見られる。葉脈は三行脈の羽状でよく目だつ。かつてはヤナギ属といわれていたが、基部の三行脈の特徴からヤナギイチゴ属と判断されている。

現生のものは東アジア・インドなどに約5種が分布している。

ヤナギイチゴ属の化石は他地方からの産出報告は少なく、神戸層群の特徴的なものの一種である。

(イラクサ科 ヤナギイチゴ属 Debregeasia Gaudich .)

現在、ヤナギイチゴ属はPopuls ハマヤナギ族の一種である。



[デジタル化](#) [神戸の自然シリーズ 16](#) [神戸層群の化石を掘る](#) [メニューへ](#)